

十字架のことば (3)

—第2のことば：救いを約束することば—

ルカ 23 : 35~43

1. はじめに

(1) 「十字架のことば」には7つある。

①前半：午前9時から正午までの間の3時間

*3つのことば

*他人に関するものである。

②後半：正午から午後3時までの間の3時間

*4つのことば

*自分に関するものである。

(2) 第1のことばは、赦しの祈りである。

「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」

(ルカ 23 : 34)

(3) 第2のことばは、救いを約束することばである。

「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」(ルカ 23 : 43)

2. アウトライン

(1) 十字架を取り巻く人々

(2) 十字架に付けられたイエス

(3) イエスを見る2つの目—①不信仰の目

(4) イエスを見る2つの目—②信仰の目

3. 結論：このことばの現代的意味

このメッセージは、第2のことばの意味について考えるものである。

I. 十字架を取り巻く人々

1. 民衆

「民衆はそばに立ってながめていた」(35節 a)

(1) 過越の祭りのためにエルサレムに来ていた。

①傍観者、野次馬

(2) リーダーコンプレックスを持った者たち

①状況に流されやすい者たち

②彼らの多くが、その数日前に、イエスを熱狂的に歓迎した人々である。

2. 指導者たち

「指導者たちもあざ笑って言った。『あれは他人を救った。もし、神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ってみろ』」(35節b)

(1) 指導者たちとは、祭司、長老、律法学者、などである。

①彼らの判断で、国の方向性、運命が変わる。

(2) 彼らは、イエスをあざ笑った。

①彼らは一度も、直接イエスに呼びかけていない。

②イエスを第3者として扱っている。

(3) 2重のアイロニー（皮肉、当てこすり）がある。

①自分を救ってくださる方を、あざ笑っている。

②あざけりの言葉は、サタンの言葉である。

③もし、本当にメシアであるなら、自分を救わせたらよい。

(Let him save himself.)

(4) 荒野の誘惑でのサタンの言葉

①「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい」(マタ4:3)

②「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる』と書いてありますから」(マタ4:6)

3. 兵士たち

「兵士たちもイエスをあざけり、そばに寄って来て、酸いぶどう酒を差し出し、『ユダヤ人の王なら、自分を救え』と言った」(36～37節)

(1) 酸いぶどう酒は、喉の渇きを癒し、鎮痛効果をもたらす。

①これは、憐みの行為のように見える。

②しかし、兵士たちは「あざけり」の行為の中でこれを行っている。

(2) これは、預言の成就となっている。

「彼らは私の食物の代わりに、苦味を与え、私が渴いたときには酔を飲ませました」(詩 69 : 21)

(3) 「ユダヤ人の王なら、自分を救え」と言った。

①これは、イエスの罪状である。

②これを材料に、イエスをあざけた。

③ローマ兵たちには、統治しにくいユダヤ人への反発があった。

④彼らの場合は、イエスに向かって言葉を発している。

II. 十字架に付けられたイエス

1. イエスの犠牲を思え。

(1) イエスの受肉

①イエスの辱めは、誕生の時から始まっている。

②神のしもべとしてのイエス

(2) 十字架は、辱めのクライマックスである。

①イエスは、罪人の間に数えられた。

2. イエスの力を思え。

(1) イエスは、死に行く途上においても、人を救うことができた。

①十字架上の第一のことばは、「赦しの祈り」であった。

3. 十字架の皮肉を思え。

(1) あざけりは、十字架刑の苦痛の一部である。

①そこにいた人たちは、もしメシアなら自分を救えと言った。

②もしイエスが自分を救ったなら、人類を救うことができなくなる。

③もしイエスが十字架から降りたなら、メシアではないことになる。

(2) 「『これはユダヤ人の王』と書いた札もイエスの頭上に掲げてあった」(38節)

①これは罪状書きである。

②ヘブル語、ラテン語、ギリシア語で書いてあった(ヨハ 19 : 20)。

③そこにいた人たちは、王が殺され、その王国を失おうとしている、と考えた。

④しかしイエスは、死ぬことを通して、全人類の王となろうとされた。

Ⅲ. イエスを見る2つの目—①不信仰の目

1. 真理が見えていない目

「十字架にかけられていた犯罪人のひとりイエスに悪口を言い、『あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え』と言った」(39節)。

(1) 悪口を繰り返した。

(2) 「あなたはキリストではないか」は、肯定的答えを想定した質問である。

①一見、信仰深そうに見える。

②しかし、「自分と私たちを救え」という言葉が、彼の本心を表している。

2. この犯罪人(強盗)の問題点

(1) 彼が願っているのは、脱獄と同じレベルのことである。

(2) ご利益信仰の限界

①病の癒し、困難からの脱出、繁栄の約束

②それが叶えられたなら、神のことは忘れてしまう。

Ⅳ. イエスを見る2つの目—②信仰の目

1. 真理が見えている目

「ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。『おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ』」(40～41節)

(1) マタイとマルコによれば、最初は2人ともイエスに悪口を言っていた。

(2) しかし、途中で彼は、悔い改めた。

①赦しの祈りを聞いた。

②黙って苦痛と辱めに耐えているイエスの姿を見た。

③相棒の醜い姿の中に、自分を見た。

④間もなく神の裁きの前に立つのだから、これ以上罪を重ねるなという忠告。

(3) 彼は、「だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ」と言った。

①イエスは、自分がメシアであると主張したので、十字架刑に処せられている。

②イエスは、ご自分が主張された通り、メシアである。

2. 信仰告白

「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください」

(42 節)

(1) 彼の信仰の内容は、不鮮明である。

①「御国」とは、メシア的王国（千年王国）である。

②直後の祝福を期待したのか、裁きの日における祝福を期待したのかは、不明。

(2) しかし、イエスがメシアであることは明確に信じた。

①この犯罪人が、一番すぐれた信仰を発揮した。

②ユダヤ教の指導者たちよりも、すぐれた信仰

③イエスの弟子たちよりも、すぐれた信仰

3. イエスの回答

「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」

(42～43 節)

(1) この犯罪人の不完全な信仰が、祝された。

①イエスは、直後の祝福を約束された。

②「きょう」とある。

(2) 「わたしとともにパラダイスにいます」

①死者の魂が行く場所は、シオール（よみ）である。

②そこは、2重構造になっており、義人の魂はシオールの祝福の場所に行く。

③その祝福の場所は、「アブラハムのふところ」（ルカ 16：22）と呼ばれる。

④そこが、パラダイスである。

⑤イエスの昇天によって、パラダイスは天に引き上げられた。

結論：このことばの現代的意味

1. 決断の重要性

(1) わずか数メートルの距離にいた2人の強盗の運命は、永遠に分かたれた。

2. 信仰による救い

- (1) 彼には、業による救いは不可能であった。
- (2) 彼は、信仰によって救われた。

3. 決断するのに、遅過ぎることはない。

- (1) 若い時にキリストを信じるのが最善である。
 - (2) しかし、決断するのに、遅過ぎることはない。
- (例話) 父の救い